

(第7回会議質問への回答) 選抜を一本化した他府県の状況について

質問内容

Q. 選抜を一本化した県で、二次募集が増えてきているということはあるのか。

回答

A. 県によって、また年度によって差異はあるが、概ね大きな変動はない。

宮城県(全日制)

	H31	R2	R3	R4	R5
募集定員	14,520	14,280	14,200	13,880	13,760
前期選抜倍率	1.65	/	/	/	/
後期選抜倍率	1.10	/	/	/	/
一次選抜倍率	/	1.01	0.96	1.01	1.02
二次募集受検数	169	150	61	133	163

…一本化→

秋田県(全日制)

	H31	R2	R3	R4	R5
募集定員	—	6,966	6,900	6,823	6,752
前期選抜倍率	—	1.14	1.10	1.12	/
一般選抜倍率	—	1.05	1.06	1.06	/
一次選抜倍率	/	/	/	/	1.06
二次募集合格者数		71	92	83	96

…一本化→

福島県(全日制)

	H31	R2	R3	R4	R5
募集定員	13,620	13,230	12,670	12,390	12,160
I期倍率	1.49	/	/	/	/
II期倍率	1.00	/	/	/	/
一次選抜倍率	/	0.95	0.94	0.95	0.95
二次募集受検数	47	39	46	28	19

…一本化→

広島県(全日制)

	H31	R2	R3	R4	R5
募集定員	15,320	14,920	14,520	14,640	14,870
前期選抜倍率	1.50	1.38	1.29	1.33	/
一般選抜倍率	1.15	1.06	1.04	1.02	/
一次選抜倍率	/	/	/	/	0.96
二次募集志願者数	121	66	58	44	57

…一本化→

- 一本化の前は、2回受検の関係で倍率が上がりやすい。
- 一本化直後は二次募集の受検者数や合格者数の変動が見られるが、徐々に落ち着いていく印象である。

(第7回会議質問への回答) 選抜を一本化した他府県の状況について

質問内容

Q. 選抜を一本化した県で、学校間での人気の格差が広がるということはないのか。

回答

A. 格差が大きく広がる様子はない。人気に一定の傾向はあるが、年ごとの変動もある。

【例:福島県】

H31

順	学校名	倍率
1	福島南	2.27
2	あさか開成	2.21
3	郡山	1.95
4	安積	1.89
5	いわき光洋	1.86
6	橘	1.81
7	磐城桜が丘	1.77
8	いわき総合	1.74
9	福島	1.74
10	白河	1.70

順	学校名	倍率
70	遠野	0.51
71	長沼	0.49
72	猪苗代	0.48
73	耶麻農業	0.47
74	梁川	0.46
75	坂下	0.45
76	塙工業	0.45
77	田島	0.44
78	湖南	0.41
79	西会津	0.41

一本化

R2

順	学校名	倍率
27	福島南	0.98
10	あさか開成	1.16
4	郡山	1.29
5	安積	1.28
1	いわき光洋	1.42
3	橘	1.31
8	磐城桜が丘	1.22
36	いわき総合	0.93
7	福島	1.24
37	白河	0.92

順	学校名	倍率
72	遠野	0.43
76	長沼	0.30
61	猪苗代	0.63
71	耶麻農業	0.44
75	梁川	0.35
74	坂下	0.36
77	塙工業	0.29
78	田島	0.20
66	湖南	0.53
79	西会津	0.18

R5

順	学校名	倍率
21	福島南	1.06
3	あさか開成	1.33
5	郡山	1.28
14	安積	1.11
19	いわき光洋	1.08
4	橘	1.30
6	磐城桜が丘	1.28
23	いわき総合	1.06
25	福島	1.05
8	白河	1.21

順	学校名	倍率
閉校(R3年度)		
閉校(R3年度)		
53	猪苗代	0.63
閉校(R4年度)		
閉校(R4年度)		
閉校(R3年度)		
閉校(R4年度)		
閉校(R4年度)		
65	湖南	0.48
64	西会津	0.50

【集計方法】

- 平成31年度(旧制度)の時の倍率(志願倍率)における上位10校と下位10校を抜き出し
- 該当校の令和2年度と令和5年度結果を掲載
- 矢印は「順」の上がり下がりによる
- 倍率は学校単位で計算

【分析】

- ※福島県は、普通科には通学区域がある。
- ※隣接学区からの入学許可(制限付き)もあり。
- ※福島県は面積が広い(全国3番目)上に、人口分布の差が大きい。
- ※倍率の低い学校については、立地等の事情によりもともと定員割れが極端に起きている。
- ※人口減少の顕著な県であり(増減率47県中43位)、募集定員も5年間で1500人減っている。
- 旧制度における倍率と新制度における倍率は一律に比較できないが、一本化直後の令和2年度よりも令和5年度の方が倍率が安定している。
- 一定して人気(倍率)が高い学校もあるが、変動の多い学校も多い。

検討主題

「生徒の優れた点を多面的な観点で評価しつつ、主体的な進路選択を推進する入学者選抜方法等のあり方について」


検討事項

○ 令和8年度入学者選抜に向けた制度の在り方について

論点① 「推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、特色選抜の現状と課題など」

論点② 「一般選抜の現状と課題など」

論点③ 「入試日程および入試業務など」



各高等学校が求める生徒像や卒業後の姿、
教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、議論

令和の時代に対応した新しい入学者選抜制度の構築

【中間報告】 新入学者選抜制度の方向性 ～主体的な進路選択の推進～

1 スクール・ポリシーを踏まえ、子どもの学びに応じた入学者選抜の実施

- 教育目標、育てたい生徒像、入学者受入方針の明確化
 - ・「目指す教育」や「求める生徒像」の周知
 - ・出願要件の明確化(校内外での活動実績、評定 など)
 - ・選抜基準の明確化(活動実績、実技検査、調査書の配点や比率 など)
- 各校の特色に応じた選抜の実施
 - ・面接、プレゼンテーション、ディスカッション、小論文、作文、口頭試問、実技など
- 中学生が自己をアピールできる自己推薦制度の導入
- 多様な尺度での評価
 - ・学力検査では測ることができない資質・能力を評価する機会の保障

2 受検機会の保障

- 複数回の受検機会
- 中学生が自己をアピールできる自己推薦制度の導入
- 特別な配慮を必要とする生徒への入試における対応のさらなる充実
- 出願変更や二次選抜の在り方

3 負担の軽減

- Web出願導入による出願業務の負担軽減
- 学力検査内容の精選や採点補助システム導入による採点業務の負担軽減

【最終報告(案)】 望まれる新入学者選抜制度について

■ 現行制度の課題

- ・受検期間の長期化による関係者の負担の増加
- ・現行の特色選抜は各高校の特色が発揮されにくい
- ・特色選抜等での受検倍率の高騰
- ・特色選抜の受検倍率の高さから多数の生徒が不合格を経験
- ・早期に入学許可予定者通知を受けた生徒のモチベーションが維持しにくい

提言

■ 入学者選抜方法等の課題に係る方策

(1) 新たな入学者選抜制度の導入

- 長期の受検期間による負担の解消 → [受検期間の短縮、負担の軽減](#)
- 推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、特色選抜等 → [各学校のアドミッション・ポリシーに対応した選抜内容に](#)

(2) 具体的な方策

- ア 選抜の実施方法 … [現行制度では2月と3月に分かれている選抜を集約し一本化](#)
- イ 学力検査の全員受検 … [学力選抜を全ての受検生に課す](#)
- ウ スクール・ポリシーを生かした選抜の実施 … [特色選抜の廃止、自己推薦制度の導入](#)
- エ 負担の軽減 … [Web出願システムの導入・採点補助システムなどICTを活用した改善の検討](#)

(3) 実施にあたって配慮すべきこと

- ・[出願変更できる制度](#)
- ・[出願要件等の明確化と十分な周知](#)
- ・[セーフティーネットの観点から、追検査や二次選抜の実施](#)
- ・[二次選抜の時期を現行よりも早い時期に](#)

その他

- ・中学校の授業時間や生徒への進路指導の時間が確保される日程とすること
- ・県内私立高等学校の入試日程も視野に入れて決定すること
- ・「多様性の時代」に対応できるようなものであること

滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 今後の予定

会 議	開催期日・場所	協議内容等
第8回 (今回)	令和5年10月25日(水) 滋賀県庁新館7階大会議室	・最終報告(案)について
最終報告	令和5年11月10日	・最終報告公表